

「ピース・シーザー」
平和や命の大切さをいろん
な視点から捉え、広げていく
「種」が「ピース・シーザー」
です。世界中に笑顔の花をた
くさん咲かせるため、小学6
年から高校2年までの45人
が、自らテーマを考え、取材
し、執筆しています。

「ゴジラ」第1作は、水爆実験による放射線を帯びて凶悪化した生物ゴジラが東京を襲うという怪獣映画です。しかし、単なる娯楽作品ではありません。反核、反戦の思いも込められていました。

「ゴジラ」製作には、米国がマーシャル諸島のビキニ環礁などで実施した水爆実験によって日本の漁船が被害を受けました。第五福竜丸・ビキニ事件が影響を及ぼしました。第1作の上映と同じ年にあつた出来事です。マグロなどの魚から放射線が検出され、日本でも放射性物質を含む雨が降るなどし、人々の不安が高まり、原水爆禁止運動が広がっていきました。

第26号

ゴジラと核兵器



ヒロシマの10代がまく種

1 地中に住んでいた微生物が、とある国の度重なる地下核実験などの影響を受け、放射性物質を取り込んで巨大な怪獣「ゴジラ」と化した。

2 地中に収まりきれなくなったゴジラは地上に現れ、餌である放射性物質を食べようと、次々と原子力発電所を襲う。原発が密集する日本や韓国は、ゴジラにとって格好の餌場となってしまった。日韓各地で放射能汚染が広がった。

日本と韓国を行き来して原発を食いあさったゴジラはその後、北朝鮮、中国、インド、パキスタン、イスラエル、フランス、英國、米国、ロシアと、核兵器や原発を食べながら移動。世界各国は協力し、ゴジラを北極海でフリーズさせることに成功した。

A black silhouette of a large, spiky creature, possibly a dragon or sea monster, standing on its hind legs and holding a sword.

この物語はフィクションです。被爆者を差別するものではありません。

国際原子力機関（IAEA）によると、原発は日本に43基（世界で多い方から3番目）、韓国には24基（同6番目）あります（1月7日現在、停止中含む）。ロシア、米国、フランス、中国、英国、パキスタン、インド、イスラエル、北朝鮮は、核兵器を保有したり開発を進めたりしているとされる国です。

「核の冬」は、核爆発による火災などで、ちりなどが空中に上がり、太陽の光が遮られて
気温が大幅に下がる一という、1980年代に示された仮説です。

1954年公開の第1作目のゴジラ (C東宝)



■ 主演した俳優 宝田明きんに聞く



況を私たちには真摯に考えなければいけないと思います。

世界から核兵器がなくなつてい
ない状況をどうしたらいいと思いま
すか。

第一作の「ゴジラ」を国会で上映
し、戦争の恐ろしさ、核の脅威を知
らない国会議員に見てもらいたい。
各校や、世界各国の議会でも上映
会をしては。今も十分通じる大切な
メッセージがありますから。これが
一つの方法かもしれませんね。

第2、4木曜日に掲載します。

ジュニアライターが取材後の感想をつづった「編集後記」を、中国新聞ヒロシマ平和メディアセンターのウェブサイト (<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=55726>) で読むことができます。

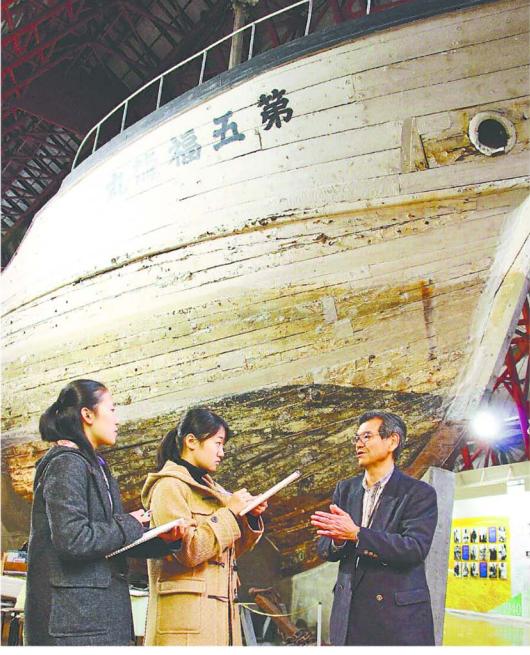
第五福竜丸展示館（東京）の学芸員 安田和也さん（63）は、第五福竜丸が被曝したのと同じ1954年に「ゴジラ」が作られた。映画を見た人は原水爆反対の思いを強くしたのではないか」と話します。

「ゴジラ」の初上映は第五福竜丸・ビキニ事件後の11月。当時の日本では、度重なる米国やソ連の核実験で放射性物質を含んだ雨が降り、飲み水や農作物などへの影響が心配されていました。原水爆は人ごとではなかったのです。こんな時代状況が「ゴジラ」がヒットした理由の一つではないか、と安田さんは説明します。

第五福竜丸被災後、翌年8月までに原水爆禁止の署名数が3200万を超え、さらに、広島・長崎の被爆者健康調査実施への理解も広がりました。安田さんは「原爆被爆者へ手を差し伸べていくことにもつながった」と話します。

安田さんは、かつて地球上に約7万発あった核兵器が、今は約1万6千発になっている現状も「粘り強く、核廃絶を言い続けた結果」と話します。とはいえる「持つていてこと」和自己が間違つ

■ 東京の展示館取材



第五福竜丸・ビキニ事件 米国が繰り返した水爆実験のうち、1954年3月1日から5月14日にかけてマーシャル諸島のビキニ環礁などで6回実施。多くの日本の遠洋マグロ漁船が被曝した。3月1日の実験で第五福竜丸の乗組員23人が被曝。半年後に無線長の久保山愛吉さん=当時(40)=が「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」という言葉を残して亡くなった。5月4日の5回目の実験では、広島や京都、東京など各地で放射性物質を含む雨が降った。基準を超す放射性物質が検出されたマグロなどの魚が大量に廃棄(はいき)された。

「いる」とし、「みんなで声を上げ続けるのが大切」と強調します。例えばオバマ大統領だけが核廃絶を主張してもなくなりませんが、米国民みんながなくなつてほしい、と言えば廃絶に近づくというわけです。

「原水爆をなくすたまご、ます戦争をなくさなければいけない。そして、原水爆の恐ろしさなどについて十分知つている」とをみんなの「常識」にすること」と安田さん。「国民は自分の意見をきちんと示し、国はそれに応える努力が必要」と言います。

暴実験のうち、1954年3月1日から5日で6回実施、多くの日本の遠洋マグロ乗組員23人が被曝。半年後に無線長のは「私は最後にしてほしい」という言葉は、広島や京都、東京など各地で放射能検出されたマグロなどの魚が大量に（高2森本芽依）